

平成 21 年度 機器・分析技術研究会 実験・実習技術研究会 in 琉球 参加報告

実験教育支援センター 加藤祐一

平成 22 年 3 月 4 日、5 日に開催された「平成 21 年度 機器・分析技術研究会 実験・実習技術研究会 in 琉球」に参加した。

例年、別々に開催されているが、今回は両研究会の合同開催となり、全国から 571 名が参加者し、口頭 120 件、ポスター 164 件の発表があった。

国公立大学や高等専門学校からの参加が大半を占め、私学は本塾を含め 4 校の参加であった。

筆者および同行の小向君はそれぞれ「実験系排水の有害物質分析」、「製作実験（アナログシンセサイザー製作）への回路シミュレーターの導入」のタイトルでポスター発表に参加した。

筆者の発表内容は直前まで筆者が所属していた中央試験所の業務および理工学部の取り組みに関する内容で、短時間ではあったがセッション中は大学で廃棄物を取り扱う部署の方などに興味をもっていただき、技術に関すること、組織に関することなど、活発な討論を行い、有用なご意見をいただくとともに、本塾の取り組みを知っていただく良い機会となった。

また、機器分析や実験教育、安全教育の取り組みに関する口頭発表をいくつか聴講した。

「ガイダンス時に実際に避難経路を歩かせた。」、「目立つように本物の保護メガネを使ったポスターを作製し、効果を上げた。」といった、非常に参考になる取り組みについて聞くことができた。また、「実験室は非日常的な空間であることを学生にしっかり意識させる必要がある。」という言葉が非常に印象に残り、改めて強く意識する機会となった。

聴講した内容については本塾でも実践可能な取り組みもあり、今後、実験教育に携わるにあたり、有用なものについては積極的に提案していきたいと考えている。